

【教育施設の耐震診断結果について】

平成20年6月に「地震防災対策特別措置法の一部を改正する法律」が成立し、6月18日付けで施行されました。この改正により、公立の幼稚園、小学校、中学校などの校舎等について、耐震診断の実施及び耐震診断結果の公表が義務付けられています。

言うまでもなく、学校施設は児童生徒が1日の大半を過ごす生活の場であると同時に、地域住民等の緊急避難所の役割を果たすことから、防災機能の充実強化は最優先課題でありましたので、耐震性の把握を早急に行うため、篠栗町では平成17年度と18年度に耐震診断を行いました。

翌年には、その診断結果で補強等の改修工事が必要と判定された建物について、耐震補強工事を実施し完了しましたので、町内の学校教育施設はすべて安全性が確保されています。つきましては、少し遅くなりましたが篠栗町の耐震診断結果を下記のとおり町民のみなさまにお知らせいたします。

○診断結果表

()は補強工事後の値

学校名	棟名	面積(m ²)	階数	構造	竣工年月	Is値(最低値)	CtuSD値(最低値)	q値(最低値)	判定結果	備考
篠栗中学校	校舎(普通教室棟)	2,771	3	鉄筋コン	S54/03	0.55(0.78)	0.44(0.63)	—	強度不足	補強工事済み
	校舎(管理、特別教室棟)	3,591	3	鉄筋コン	S54/03	0.8	0.68	—	基準に適合	
	屋内運動場	995	1	鉄筋コン	S54/03	0.99	0.31	—	強度不足(屋根)	補強工事済み
篠栗北中学校	校舎(普通教室棟)	1,747	3	鉄筋コン	S61/02	0.79	0.63	—	基準に適合	
勢門小学校	校舎(西棟)	1,740	3	鉄筋コン	S56/01	1.08	0.41	—	基準に適合	
	校舎(中央棟)	3,146	3	鉄筋コン	S56/01	0.75	0.42	—	基準に適合	
	校舎(東棟)	1,186	3	鉄筋コン	S56/01	1.09	0.42	—	基準に適合	
	屋内運動場	1,052	1	鉄骨	S53/10	0.27(0.72)	—	0.59(1.03)	強度不足	補強工事済み
篠栗小学校	校舎(普通教室棟)	1,478	3	鉄筋コン	S55/03	0.91	0.33	—	基準に適合	
	校舎(管理棟)	2,771	3	鉄筋コン	S55/03	0.78	0.66	—	基準に適合	
	屋内運動場	995	1	鉄骨	S54/03	0.87	—	1.57	基準に適合	
北勢門小学校	校舎(普通教室棟)	1,528	3	鉄筋コン	S53/03	0.93	0.77	—	基準に適合	
	校舎(管理、特別教室棟)	2,095	2	鉄筋コン	S53/05	1.34	0.3	—	基準に適合	
	屋内運動場			鉄骨	S53/12	0.89	—	1.61	基準に適合	

なお、篠栗北中学校・萩尾分校・篠栗幼稚園・勢門幼稚園・北勢門幼稚園については、昭和56年に建築基準法が改正された後の建築物で新耐震基準に適合しているため、今回の耐震診断から除外しています。

昭和61年建の篠栗北中学校校舎(普通教室棟)は、校舎増築工事に伴う建築確認申請の関係で普通教室棟のみ耐震診断を実施しています。

◆用語の説明 <Is値(構造耐震指標)>

建物の総合的な耐震安全性に関わる指標で、地震の震動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性を表し、その数値が大きいほど地震に強い建物といえます。

阪神大震災等の過去の地震被害では、Is値が0.6未満の建物に大きな被害が集中しています。学校の校舎等においては、その重要性を考慮して文部科学省はこのIs値の判定基準を0.7以上としています。

<q値またはCtuSD値(保有水平耐力に係る指標)>

保有水平耐力が極端に小さくなっていないことを確認するために用いる指標で、Is値が判定基準を満たした場合であってもq値が一定値以上となることを確認する必要があります。

「建築物の耐震改修の促進に関する法律」では、Is値が0.6以上である場合で、かつq値が1.0以上の場合であれば地震時の倒壊・崩壊の危険性が低いとされています。診断基準では、q値に代わる指標としてCtuSD値を用いて、診断基準は0.3以上とされています。